

(学)長橋学園 杉田幼稚園の「令和6年度 自己評価及び学校関係者評価」結果

令和 7 年 3 月 11 日

(学)長橋学園 杉田幼稚園

1、幼稚園（杉田幼稚園）の教育目標

教育基本法及び学校教育法を基本として、幼稚園教育（幼児教育）を推進し、豊かな心を持てる人を育成することを目的とし、次の教育目標を定める。

教育目標：「明るく 元気に がんばる子」

その目標に～ ・物を大切にする子 ・思いやりのある子 ・お友だちと沢山遊ぶ子 ・お話をよく聞くことができる子・思ったことがはっきり言える子 ・考える力のある子 を目指して指導する。

2、令和6年度の事業計画及び重点目標

事業計画～「緑いっぱい自然の中で、元気な子が育つ学園」として教育活動の推進

- ① 子ども子育て新制度(施設型給付園)への移行が円滑に進み、本年度は「県教育大綱」に沿って、園児一人一人の生き生きとした教育活動を実践するとともに、想定される「南海トラフ地震」や「富士山火山」の危機管理や全国で発生している集中豪雨・雷雨発生等にも注意しながら、安心・安全な環境づくりに努める。
- ② 園児達の発達段階に応じた指導を徹底し、“生きる力”の基礎を培う「モノづくり体験」を実践して行く。
- ③ 思いの伝え合いの場づくりに意を用い、規範意識の芽生えを育む活動ができる教育課程を工夫する。
- ④ 「架け橋プログラム」が円滑に進むよう、近隣小学校や幼稚園の連携を充実し、保護者協働も推進する。

以上の事項を重点として、教育内容のさらなる充実に努める。

3、評価項目の達成及び取組状況

A：十分達成されている B：達成されている C：取組まれているが、成果が十分でない D：取組みが不十分である

評価項目	自 己 評 価		学校関係者評価	
	結果	内容・理由等	結果	内容・理由等
1、保育内容 (1) 保育 の計画性	A	園の教育理念や方針を基に、園全体・各学年・クラスの保育計画(年・月・週案)進め、園児の成長度合いを確認し、計画内容を改善した。 また、少子化等の時代の変化を的確に把握し、常に危機意識を以って、次への新たなステップに進めるようにしている。	A	新たな社会の変化に合わせ、教育活動も、随時に変更しながら、日・週案を立て、その反省記録を、園長・副園長等に回付し、評価・助言等を行っている旨を評価委員会で伺い、園全員が一つになって教育活動や学園行事に当たっている状況に改めて敬意を表する。 また、複数教員の産休・育休・時短も

		社会の変化は子どもにも及んでおり、これらを意識し、新たな環境構成や行事にも工夫を施して、保育計画を順調に進めることができた。		あり、非常勤教員等が的確に各クラスの指導にも携わり、各学年とも、子どもたちの発達に合わせた環境構成もしっかりでき、縦割り教育活動等、新たな園運営にも取り組んでいることが、各人の自己評価書から伺われた。 設置者・園長の評価書からも、教員が保護者の信頼を受けて、子供の目線に立ち、教員のコミュニケーションを図り、日々の教育活動や生活指導を進められていることが理解できたので、一層の努力を期待する。 また、防災等への取り組みも新たな訓練方法等に挑戦するなど実践されており、教員各位の更なる努力を願う。
(2) 保育のあり方・幼児への対応	B	在園児達の個々の特質などを各教員で共有し、子どもは教師の姿を見て育つことを意識し、保護者からも随時に的確な情報を頂き、遊具や乗り物玩具の点検など徹底し、日々の教育活動や生活における安心な場づくりを心掛けた。 さらに、預かり保育や要配慮児への取組等も強化するとともに、ものづくり学習では、年少から年長児の異年齢共同の活動を取り入れられた。		
2、保育者としての資質・能力	A	教員の年齢層も若くなっているが、教員同士がその立場、役割を理解し合い、コミュニケーションを大事にし、相互で教育方法についての検討を実施した。各教員一人一人も研鑽を教員の積み、専門性を高め、保育に自信を持って取組めるよう、アンテナを高くして情報を交換している。 資質向上に向けては、協会や県・市の幼児教育・福祉部門が行う特別・専門研修に積極的に参加するとともに、園内研修機会も増やし、先輩は、後輩の意見等も組み入れ、相互の成長に努め、各地で発生地震や豪雨の際の避難対策なども研鑽している。	A	自己評価全般を見て、教員それぞれが研鑽を重ね、ベテラン教員は、若手教員へのアドバイスなども適時・適切に行い、全員が相互に補い合いながら、自己の資質向上に努める姿が伺え、今年度実施した事故防止や少子化対策などの園内研修等を高く評価したい。 さらに、子どもは、先生を「心の寄り掛かり」にしており、日々の研鑽、教育課程の充実が、その源となるので、6年度の富士宮市内幼稚園の公開保育や他園との幼幼交流・共同研究を通じ、教員全体の更なる資質向上を目指し、本園への希望園児が一層増えていくことを期待している。
3、保護者への対応	A	教育目標に掲げた保護者や地域との共感し合う教育活動が、本年度	A	本園恒例のバケツ稲づくり、椎茸の駒打ち体験、運動会、生活発表会、交通

		は、コロナ感染が収まり、夏のフェスタ、秋の運動会や生活発表会は順調に実施され、保護者の協力も十分得られ、年長・年中児の親子協働(稲苗植え・椎茸駒打)作業も良かった。 クラス別の保護者面談も保護者と相互に話ができ、情報交換のお便り帳では、写真や絵柄を使う工夫等を行い、共通理解ができた。バス通園児の保護者との情報交換の機会も増やす工夫をして、親に不安を与えないように心掛けて行く。ハイチーズによる保護者への写真提供は、園活動を保護者に理解頂いて効果がある。 また、保護者との会話なども、子ども達との言葉の掛け合いを発展させ、共通の話題を見つけながら対応応していくよう努めていきたい。	安全教室など、親子協働活動が円滑に進められ、成果が上がった。 また、保護者からの子育てに関する相談(要配慮児)等も多くなっており、子育て支援カウンセラーの来園等を図り、きめ細かな対応ができた点は評価する。 特に、保護者とのお便り帳の交換では、写真や絵柄を挿入する等工夫をして、家庭との共通理解を深められた。 “ハイチーズ”の写真提供は、新たなメディア利用として保護者からの好評もあることが述べられ、さらに期待したい。 なお、今後は、子育て支援としての「たまごちゃん教室」をより充実するとともに、子育て不安解消への支援など、きめ細かな幅広い活動を行って、本園に子弟を通わせる保護者との融和が確立されると信じている。
4、地域の自然や社会とのかかわり	C	コロナをはじめとする感染症が減って、地域との連携が活発にできるようになり、「運動会」や「すぎの子フェスタ」などに、区民の参加を啓発し、園・家庭・地域が一体となった教育活動が進められるようこ園児たちと力を合わせて努めて行きたい。 年度初めの日曜日に、「地域にある神社の祭典」などへの園児出演も実施しており、年中児の「地区敬老会」への参加の復活、年長児の「茶道体験」に対する地域の方々の指導、5年度末から始まった地域ボランティアの「読み聞かせ教室」など、直接的な連携・交流を増やすよう努めて行く体制づくりをやって行く。 また、教員自身が地域の自然や歴	B 本年度の事業報告を伺い、コロナやインフル感染が収まり、ここ3年余り、縮小や中止等を余儀なくされていた園と家庭・地域が一体となる学園行事や教育活動が進展され、幼稚園への期待が高まっている。 特に、年長児の鼓隊演奏が運動会や生活発表会で見る事ができたが、この演奏は以前より、地域との触れ合いに役立ち、園児の人間形成の基礎となるので、毎年の「市消防フェスティバル」も意義あるが、市内各地の「寄り合い処」などへの出演も相互の融和に繋がると思う。 また、年何回か地域にある大型店舗への絵画の展示も、地域連携の一步と思う。 園の教育活動として実施している

		史、寺社等の知識を深め、それを教育活動の素材として取り入れていくことが、地域との関りも深まり、交流に繋がり、園児の地域意識を助長する上からも、園児の「園外散歩」なども大切と思う。		「カレーづくり・餅つき」を始め、「さつま芋やバケツ稲」を育てる体験学習にも地域の協力と保護者の参加など、新たな活動が増えることを期待する。 さらに、学校関係評価者も述べているが、教員が地域の歴史や寺社の由来等の探求を進め、郷土史研究家の招聘も取り入れ、園児の指導に役立てて欲しい。特に近隣小学校との園児・児童交流は、相互の成長に役立つものとして活動時の内容充実が望まれる。
研修と研究について	B	年間を通じ、園全体の教職員間で、コミュニケーションを図り、園内研修を年間数回施行するとともに、市私立幼稚園協会の「教育研究」の内容充実にも努めたい。本園野「危機管理マニュアル」にある感染症や地震・噴火等発生後の状況が長引いた場合、園児一人一人の「心のケア」に関する研修も課題である。 また、他園の良い所を吸収できる市内10園による「公開保育」に進んで参加し、近隣幼稚園との相互の園児交流とともに、園児の発達への工夫などの共同研究、さらに小学校との連携を積極的に行い、県私立幼稚園協会のオンライン研修へも参画して行きたい。なお、研修参加の際、研修テーマ等を見て、事前の準備を心掛けたい。	A	本年度の「公開保育」は、市内2園に教員が分散して参観され、教員相互の交流を通じ、教育者としての資質向上に一層努められ、大きな成果だった。 通園バス事故などに関して、今年度も交通安全教室の際、園児のクラクション操作体験を実践し、さらに、日常勤務の中での安全確認の注意点を教職員間で話合うなど、常に危機管理を徹底していることを伺い、その姿勢を評価する。 少子化とこども育成の柱として「こども家庭庁」も発足され、幼小連携の機会を創ることが必須とされている事に鑑み、本園の歩みの中で確実に発展できるよう取り組んで頂きたい。 また、他の幼稚園と共同研究・研修など幼小連携の推進も教員の資質向上・発展になるのでぜひ継続してほしい。 更に、自己評価にも表れているが、コロナ感染や大きな災害後の園児たちの心への影響が出ることも予想されるのでアフターケアの研修を継続されることを期待する。

4、重点目標等に対する総合的な評価結果

結果	内容・理由等
A	新型コロナやインフル感染が収まり、本園の運営体制も、私学助成園から子ども子育て新制度である「特定教育・保育施設」として確立され、年間を通じた園全体の保育計画及び月間・週間指導計画の実施に余裕が出てきて、教職員各位においても、自己の教育活動の中で、園児の生活をしっかりと進めて頂き、教員相互に意見交換など行い、工夫やアイデアを出し合って、各年齢ごとの園児たちも、それぞれの課程を通じ、楽しく学び、遊ぶことができたことに感謝している。 特に、園行事の「運動会」や会場が一時変更となっている「生活発表会」は、保護者の協力・支援もあり、「カレーづくり体験」は、地域のLPガス協会の方々、「餅つき」は、農業団体の壮青年部の支援があり、PTA 会長自らが杵の使い方を園児に伝授し、「地域と共に生きる教育の実践」を進められたことを評価するとともに、これからも、預かり保育や要配慮児への取り組み等、本園の教員全体が力量を発揮され、幅広い教育活動と、それをバックアップする園全体の運営体制もより強固にして行かれることを期待する。 また、地元の農業(さつま芋・落花生)や茶道体験教室など地域の教育資源や地位の方々の支援により教育活動が展開され、「富士山の日」・「おやこんぼの日」等を活用する生活体験などもあって、園児の豊かな心を育む上でも、十分な効果があったと思う。さらに、教員自らが行動し、視野を広め、地域（自然、歴史、地形、寺社、祭り等の教育資源）を学ぶ機会を増やし、その素材や地域の伝統等を園児たちの学びに活用されるよう来年度へ繋げて頂きたい。 また、園と家庭（保護者）・地域が連絡を密にし、保護者参観日の内容を充実するとともに、ホームページは、随時内容の見直しを行い、幼稚園を多くの方に理解頂けるよう、努められたい。

5、今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取組方法
1、教育計画に基づく地域、保護者と共感し合う教育活動の推進	・子ども子育て新制度「施設型給付園」に移行し、本園の教育活動も着実に進められているところで、これまでの教育諸計画を常に振り返り、見つめ直ししながら、来年度は、更に内容の濃い年間計画を立て、日々の保育や学園の諸活動を進める。
2、教職員の資質向上を目指した研修の充実	・本園は創立45年余が経過し、運営面でも大きな節目であり、コロナ感染等の影響もあり、ここ数年間でできなかった杉田幼稚園から地域への情報発信を増やし、特に、学園の主要行事への地域住民の参加を回覧板やHPによって啓発し、保護者や地域等に杉田幼稚園をアピールするとともに、教員自身も地域の自然、歴史、産業、寺社の生い立ち等を学び、教職員の視野を広めて行く。 ・幼稚園教育要領や来年度施行の「県教育大綱」の内容を全教職員が会得し、要配慮児への対応及び地域や保護者との共感し合える新たな課題等をテーマとした教職員の研究体制を充実するとともに、教職員の資質向上に向けた研究・研修体制を強化する。 ・地域の小学校や幼稚園との連携を図り、教職員間の交流や共同研究等を行うとともに、教職員のチームワークの良さを、園活動の中で園児達に示し、伝授して

3、学園の防災・危機管理等の徹底	いくことで、園児たちが有意義な園生活を送れるように努める。 ・通園バス事故や各地で発生した地震、豪雨による教育活動の停止等を教訓に、園全体で「事故を防ぐための危機管理マニュアル」や「コロナ感染防止ガイドライン」を始め、「地震等防災対策マニュアル」「富士山噴火避難確保計画」を随時に見直すとともに、保護者とその家庭との連携を深め、防災や衛生管理機関等との連絡体制の強化を図り、実践的な避難訓練、情報提供等を実施するとともに、園内遊具の点検・改善整備も行い、危機管理教育の推進を図り、インフルエンザや新型コロナウイルス等の感染症対応など一層の充実強化に努める。
------------------	--

学校関係評価者

(参加者) ・保護者（杉田幼稚園PTA会長） ・地域住民（地区在住） ・学識経験者（天間くらし支え合いセンター会計）
--

<公表予定日>

- | | |
|----------------|--------------------|
| 1、杉田幼稚園のホームページ | 令和7年5月8日より |
| 2、杉田幼稚園の園内掲示板 | 令和7年5月9日～令和7年5月22日 |

令和6年度 学校法人長橋学園 杉田幼稚園 財務情報公開

1.財務状況

【資金収支計算書】

科 目	決 算 額
収入の部	
学生生徒等納付金収入	2,936,550
手数料収入	28,000
寄付金収入	-
補助金収入	69,650,260
資産売却収入	-
付随事業・収益事業収入	6,446,619
受取利息配当金	12,791
雑収入	2,168,865
その他の収入	9,577,093
資金収入調整勘定	△8,224,996
前年度繰越支払資金	11,243,589
収入の部 合計	93,838,771
支出の部	
人件費支出	58,170,995
経費支出	19,814,162
施設関係支出	3,465,000
設備関係支出	443,300
資産運用支出	6,431,911
その他の支出	1,362,599
資金支出調整勘定	△1,598,010
翌年度繰越支払資金	5,748,814
支出の部 合計	93,838,771

【貸借対照表】

科 目	本年度額
資産の部	
固定資産	264,944,502
流動資産	13,973,810
資産の部 合計	278,918,312
負債の部	
固定負債	5,166,700
流動負債	3,407,118
負債の部 合計	8,573,818
基本金の部	
第1号 基本金	377,534,830
第4号 基本金	6,000,000
基本金の部 合計	383,534,830
翌年度繰越収支差額	△113,190,336
純資産の部 合計	270,334,494
負債及び純資産の部 合計	278,918,312

【事業活動収支計算書】

【事業活動収支計算書】			
科 目			決 算 額
教育活動収支	収入	学生生徒等納付金収入	2,936,550
		手数料	28,000
		寄付金	0
		経常費等補助金	68,950,260
		付随事業収入	6,446,619
		雑収入	2,168,865
		教育活動収入計	80,530,294
	支出	人件費	58,602,895
		経費	27,299,653
		徴収不能	0
		教育活動支出計	85,902,548
	教育活動収支差額		△ 5,372,254
	収入	受取利息・配当金	12,791
		その他の教育活動外収入	0
支出	借入金等利息	0	
	教育活動外収支差額	12,791	
経常収支差額			△ 5,359,463
教育活動外収支	収入	資産売却差額	0
		その他の特別収入	700,000
		特別収入計	700,000
	支出	資産処分差額	0
		その他の特別支出	0
		特別支出計	0
基本金組入前当年度収支差額			△ 4,659,463
基本金組入学合計			△ 3,808,300
当年度収支差額			△ 8,467,763
前年度繰越収支差額			△ 104,722,573
翌年度繰越収支差額			△ 113,190,336
事業活動収入計			81,243,085
事業活動支出計			85,902,548

【財産目録】

科 目	金 額
基本財産計	227,016,476
運用財産計	53,657,961
資産の部 合計	280,674,437
固定負債計	5,166,700
流動負債計	3,407,118
負債の部 合計	8,573,818
差引純資産	270,344,494
正味財産の部 合計	278,918,312

財 産 目 録

令和6年4月1日から
令和7年3月31日まで

(単位:円)
学校法人 長橋学園

科 目	金 額
I 資産の部	
(有形固定資産)	
1土地	123,210,405
2建物	87,266,951
3構築物	7,544,838
4備品	1,756,125
(1)教育研究用機器備品	440,385
(2)管理用機器備品	1,315,740
5図書	840,431
6車両	4,641,601
7建設仮勘定	0
小 計	227,016,476
(その他固定資産)	
1電話加入権	30,000
2有価証券	30,000
3施設引当特定預金	34,000,000
4退職給与引当特定預金	3,278,011
5協会預け金	2,336,600
6積立保険料	0
7預託金	9,540
8財政調整引当金特定資産	0
小 計	39,684,151
(流動資産)	
1現金預金	5,748,814
2未収入金	8,224,996
3立替金	0
小 計	13,973,810
[資産の部合計]	280,674,437
II 負債の部	
(固定負債)	
1退職給与引当金	3,278,000
2長期未払金	1,888,700
小 計	5,166,700
(流動負債)	
1未払い金	2,931,210
2前受金	0
3預り金	475,908
小 計	3,407,118
[負債の部合計]	8,573,818
III 正味財産の部	
(正味財産)	
1基本金	379,726,530
(1)第1号基本金	373,726,530
(2)第4号基本金	6,000,000
2繰越収支差額	
(1)翌年度繰越収支差額	-113,190,336
[純資産の部合計]	270,344,494
[正味財産の部合計]	278,918,312

令和 6 年度 事業報告

(学) 長橋学園 杉田幼稚園

1、学校法人の実績

昭和54年3月15日に地域の要請により設立した本園(私立幼稚園)は、45年余の長きに亘って、「豊かな人間性の基礎を育み、健康で明るい素直な子どもの育成」と「地域に根ざした幼児教育施設の役割」を果たしている。近年の少子化という大きな流れの中で、ここ数年ほどはコロナ感染など予測できない自然災害などの影響もあり、教育活動や学園行事の中止・縮小等も余儀なくされたが、昨年度に「子ども・子育て新制度」に基づく「特定教育施設」に移行し、その2年目となった今年度は、新たな道のりを着実に進み、運営面も良好な状況で終始した処であります。

2、就園児の実績

区 分	年長(はと)	年中(ひばり)	年少(ひよこ)	満3歳児(もも)	合 計
学級数(級)	1	1	1	1	5(園則学級数:9級)
園児数(人)	22(卒)	18	20	7	67(利用定員:75人)

<令和7年3月現在>

3、研修の実績

県私立幼稚園振興協会等の外部研修が、会場型研修からリモート研修やハイブリット研修に進展した経緯の中、教職員は、予定した研修を受講し、幼児教育の充実を担う教職員の資質向上を果たすことができました。加えて、富士宮市私立幼稚園協会の公開保育への参加(1月)、実技研修(8月)も、当初計画した研修メニューを、ほぼ完遂することができた。

こうした中、園内の教職員が園内で相互に、その力量を高め合うことができる園内研修を重視し、毎月末の教職員会議後の時間を利用して、「園児の諸行動への対応や遊具・交通事故等の危機管理の徹底」、「幼児教育センターとしての園開放のあり方」、「富士山噴火を想定した避難訓練」など、教員相互で工夫しながら、多彩な研修・研究を実践した。

4、教育活動(行事)の状況

新年度を迎え、本園が掲げる「明るく元気に頑張る子」を目標に、① 園児一人一人が、生き生きと活動できる場づくりを実施した。② 家庭、地域社会及び幼稚園が一体となり連携を深め・相互に理解し、共感し合える園づくりとしてバケツ稲作体験教室(苗植え、稲刈り、脱穀、餅つきなど、環境構成を工夫しながら実施した。また、この一環として「おやかんぼ事業」(振興協会主催)を推進した。③ すぎのこフェスタ、運動会、生活発表会など大規模な学園行事は、時間の短縮や使用する会場(生活発表は会場変更)の衛生管理の徹底等により、園児の活動をほぼ計画通り実践することができた。④ 小学校への接続が円滑にできるよう園児たち(年長児)の「交通安全教室」を2回に亘って開催し、交通指導員・うさぎさんクラブ員(保護者)の指導で、横断歩道での注意などを学び、園児全員で、通園バスのクラクション発信体験を経験した。また、幼少連携とし、富士根南小学校児がカレーパーティーに参加し、在園児との交流ができた。さらに、満3歳児保育も最大7名が就園した。

＜主要学園行事の実績＞

年 月	行 事	年 月	行 事
令 6 . 4	入園式、始業式、内科検診、子安神社祭典に出演(はと組) 歯科検診(全員)、菜の花迷路体験(はと・ひばり)	令 6.10	芋ほり(全員)及び稲刈り・脱穀体験(はと組)、交通安全教室(バス警笛: 全員)
11 5	保護者参観(学年別)、バケツ稲苗植(はと組:保護者連携)	11 11	・防災訓練(避難:富士山噴火を想定した避難、講話、消火器、引渡し)、生活発表会
11 6	防災訓練、さつま蔓挿し・落花生蒔(はと組)、ジャガイモ堀(もも組)、カレーづくり火育・食育・南小交流体験(全員)、保護者(土曜)参観	11 12	・餅つき体験(黄な粉餅、鏡餅作成)、クリスマス-サンタ来園(プレゼント)、根南小との教員交流、お店屋さんごっこ、終業式
11 7	すぎのこフェスタ、終業式	令 7 . 1	・始業式、繭玉作り(飾り)・正月遊び(凧作り・凧揚げ・かるた遊び)、公開保育(参加園))
11 8	夏期保育(流しソーメン: 全員、スイカ割:はと組)	11 2	交通安全教室、豆まき(園児・教職員)、茶道体験(はと組)、保育参観(学年毎)、お別れ遠足(年長児: まかいの牧場)、縄跳び
11 9	始業式、運動会(午前完了)、防災訓練、落花生堀(年長児)・挽ぎり(全員)	11 3 予定	お別れ遠足(全員: 西公園)、お別れ会、卒園式、終業式

5、施設・設備整備の状況

園児の安心・安全確保のため、施設・設備の点検を実施するとともに、遊具等点検(年9回)を行った。平成30年度末に設置した「防犯カメラ装置」によって園舎内外の保安に役立っている。

本年度の設備整備は、駐車場舗装整備: 3,465 千円(市施設・設備補助金 700 千円)を実施した。

6、管理・運営関係の実績

(1) 預かり保育<保育時間外に加え、夏・冬休み預かり保育を実施> (2) 通園バスの運行・安全対策 (3) 園庭開放事業(子育て支援「たまごちゃん教室」事業の実施) (4) エコ教育の推進と古紙回収の実施 (5) 教育実習生の受入れ (6) 市内PTA活動(5/18 富士山こどもの国、諸会議) (7) 「特定教育施設」への移行に係る2年目事務遂行 (8) 新教育要領に基づく教育課程充実 (9) 「杉田幼稚園ホームページ」の改良 (10) 私立幼稚園教育研究東海北陸大会への参加<金沢市> (11) 学校評価の徹底 (12) 秋の動物園遠足、お別れ遠足、入園式、卒園式の実施 (13) 絵画コンクール入選等(富士山こどもの国・富士サファリ、消防大会、富士山コンクール等)